

登録コード	L1720200	開講年度	2026	
担当教員	塩原 佳典	副担当		
授業科目	日本史概論Ⅱ			
英文授業名	Japanese History: Introduction Ⅱ			
授業タイトル	日本近現代史の記述と史学史的背景			
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 金曜・2時限
講義室	人文第2講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以前カリキュラム対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力		⇔	日本史研究（特に近現代史）に関するこれまでの枠組みや方法論をふまえつつ、それらを批判的に問い直し、自らの関心と接続しながら課題設定ができるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	日本史研究（特に近現代史）に関するこれまでの枠組みや方法論をふまえつつ、それらを批判的に問い直し、自らの関心と接続しながら課題設定ができるようになる。
授業で学べる「テーマ」	地域運営			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	この講義では、日本近現代史について概説します。高校日本史で扱うトピックスを基本としながら、前近代からの連続性、およびアジアやヨーロッパ史との関連性を念頭に授業を展開します。もとより、高校教科書を単に読み直すだけではありません。歴史学における問題枠組みや方法論の変遷を参照することで、教科書の記述を成り立たせている史学史的な学知のあり方にも目を配ります。そのため、過去と現在の教科書を比較し、記述の「書き換え」についても考察します。 このほか、特に20世紀以降については、映像など文書以外の史料も利用しながら論じます。歴史研究が、文字史料を中心としつつも、多彩な手がかりを用いて取り組まれている現状について紹介します。 受講生には、歴史を記述する営みがどのような素材や問題関心のもとに成り立っているのか、その過程への視座を身につけてほしいと思います。そこから、自分自身で歴史を研究する勉強につなげてください。			
授業計画	授業計画 1. ガイダンス：「日本」の近現代史を記述すること 2. 日本資本主義論争から戦後歴史学へ：明治維新はどう論じられてきたか 3. 問題としての国民国家：私はいつから「日本人」になったと考えるのか 4. 近代日本の通俗道徳と伝統的民衆世界：民衆思想史が切り開く光景 5. 明治地方自治体制と政党政治の起こり：地方利益論とその相対化 6. 明治憲法と教育勅語：立憲主義の見果てぬ夢 7. 日清・日露戦争という経験：資本主義社会における国民の分裂と統合 8. 帝国日本のデモクラシーと「社会」の発見：生の複数性が自覚され始める 9. 農村の貧困：工業化と人口移動、生活と国体 10. 「銃後」の生活文化：女性、子ども、障害者、植民地にみる動員の様相 11. 総力戦体制の「福祉国家」から「戦後」へ：始まりそこねた「敗戦後」 12. 高度経済成長と社会運動の広がり：『プロジェクトX』が逆照射するひずみ 13. 大衆消費社会で暮らす：「ピカピカの所与」と子どもの遊び 14. 「失われた30年」の社会史：文化と政治が脱文脈化するなかで模索される共同性 15. まとめと展望：「戦後80年」を物語として生きる（授業アンケート実施）			
成績評価の方法	毎回の小レポート（30%）と期末テスト（70%）によります。			
成績評価の基準	講義の内容を理解していることを基準とし、①批判的に受けとめさらなる問いを立てている（「卓越」）、②浮かんだ疑問をまとめ述べるができる（「やや上にある」）、③内容を的確に理解している（「その水準にある」）とする。			
事前事後学習の内容	配布するレジュメをもとに予習と復習に取り組んでください。レジュメでは引用・参考文献を必ず表記しますので、それらにも目を通してください。			
履修上の注意	高校までに使用していた日本史（または社会科）の教科書は有益な参考書になるので、手元に置いて受講してください。			
質問、相談への対応	適宜受け付けます。授業後など、気軽に質問してください。オフィスアワーは、金曜3限に設定しています。			
教科書	毎回講義レジュメを配布します。			
参考書	各回の内容に合わせ参考文献を都度紹介します。加えて関連する論点を比較的多く提示する文献として、以下を紹介しておきます。各自の関心に合わせ、複数冊に目を通してください。 安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社ライブラリー、1999年			

参考書	藤田省三『精神史的考察』平凡社ライブラリー、2003年 成田龍一『近現代日本史と歴史学：書き換えられてきた過去』中公新書、2012年 藤野裕子『民衆暴力：一揆・暴動・虐殺の日本近代』中公新書、2020年 松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』岩波書店、2022年 高岡裕之『増補 総力戦体制と「福祉国家」：戦時期日本の「社会改革」構想』岩波現代文庫、2024年
-----	--